

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4472500489		
法人名	有限会社ケアつかさ		
事業所名	コスモなおかわ		
所在地	大分県佐伯市直川大字横川508番地 (電話) 0972-58-2522		
自己評価作成日	平成22年 3月12日	評価結果市町村受理日	平成22年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472500489&amp;SCD=320">http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472500489&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分県大分市大字羽屋21-1		
訪問調査日	平成22年 4月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

安心安全、快適に生活していただく事はもちろんですが、季節感を感じていただいたり旬な場所等に出かけて興味も広げていただきたいという目的で、1ヶ月に1回ドライブに行っています。開設から5年という月日が経過しておりますが、ずっと続けており、今後も続けていきたいと考えております。2年前より家族の方に毎月お便りを出し、近況報告をしています。楽しみにしていると好評です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

季節の移り変わりが目でわかるように自然環境に恵まれ、心身ともリラックスできる爽快感を受け、また対応する職員の礼儀正しさ、やさしさ、相手を重んじる姿勢が支援する場面々々感じ、理念に基づいたケアが行われていることを確認する事ができ、特に要望・意見への対応には、いやな顔せず積極的に取組む姿勢が見受けられました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、全職員で復唱して意義付けを行い実践に向け取り組んでいる。	理念は全職員で話し合い、日々のサービス提供場面でも理念に基づいた支援がなされており、職員の採用時には、必ず事業所の方針としての理念を説明、理解出来るように取組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に会えば利用者と一緒に挨拶をして交流を深めている。また行事の時は案内をして参加してもらえるよう取り組んでいる。	地区の美化活動や地域のお祭り、盆踊り等には参加し、年2回ほど小中学校生がボランティアとして、また近隣の人達がホームへ立ち寄ってくれたり、畑の作物など頂くなど地域の人達とのふれあいが保たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の中学生の福祉体験学習を受け入れ若い方にも理解してもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事等は写真を見て頂きながら報告し、意見交換している。	自己評価、外部評価、目標達成計画を運営推進会議に報告し、色々な意見交換がなされ、出された意見・要望の対応・改善は職員に伝え改善は皆で取り組んでいます	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で疑問点等の意見を求めている。	課題が生じた時は市職員のところへ出向いて協議されています。 認定更新の機会等に市の担当者へ、利用者の状況やニーズを伝えております。	市職員が事業所の状況や利用者の生活状況を把握できるためにも職員の来所や実習体験としての受入を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念でもうたってるように、その人らしく暮らせるよう取り組んでいる。	身体拘束の勉強会を年2回実施され、利用者の行動制限の抑制は行っていません。利用者が外出しそうな気配を感じたら止めるのではなく、さりげない声かけ、一緒について行く等、安全面な配慮に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で身体拘束虐待について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用してないので学ぶ機会をもっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問に思いそうな事は、分かりやすく時間をかけて説明をして、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月お便りをだすことで信頼関係を築き、面会時には利用者の様子を伝えながら、話の中で意見や苦情が言いやすい雰囲気づくりに留意している。玄関には意見箱を設置している。	家族の集りでは意見が出やすい環境に取組まれ、意見・要望等があった時は職員間で話し合い、運営推進会議、市町村など事業所以外に意見、苦情を云える場所があることを家族等に説明されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換をしており運営に反映させている。	毎日のミーティング、勉強会等で職員の意見を聴かれ、事業所の大事な決定は、現場の職員が参加出来るよう取組まれ、日常的な関りの中で感じる、職員の気づき、アイデアも運営の中に取り込まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力、成果をできるだけ把握するよう、現場には出向いており、資格取得希望者には支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会、研修会の情報は回覧し、希望者は受講できるよう勤務の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の福祉施設の行事には参加し、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があれば出向いて本人より希望や意見、心配事を聞き、できるだけ信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事、不安な事を聞き、施設での対応を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて支援が受けれるよう可能な限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	感謝する気持ちを忘れず、共に教え教わりながら過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に状況を伝え、ケアが上手くいくよう、家族にも協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何かあれば、家族に連絡して来所していただいている。行事には、家族を誘い楽しく過ごせるよう支援している。	本人の生活状況が理解できる為、馴染みの知人、友人等の家に遊びに行ったり、継続的な交流に対する支援を積極的に取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カルチャーやレクリエーション等には、声かけし、楽しく過ごせる場面作りをしている。時には職員が架け橋となり利用者同士が上手に関われるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院に出向き、継続的な付き合いができるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりの中で、それぞれの希望や意向を把握できるよう努めている。困難な利用者は、家族と相談し、なるべく本人の希望にそえるようにしている。	一人ひとりの思い、暮らし方の希望の把握に努め、どのように暮らしたいか、何をされたいのか、家族を交え検討が行われております。本人が言葉や言葉にしづらい事を日々の態度や表情から感じ支援がなされています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より聞き取り、生活史の作成に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のできる事、できない事を確認し、全体を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を優先して職員と検討しながら介護計画書を作成している。	介護計画は本人や家族と本人本位で話し合い、気づき、要望を反映し取組まれています。支援中の介護計画で対応出来ない本人、家族の要望が生じた場合は、モニタリングに基づいた見直しに取組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にチェック表、ケース記録を用意し、身体状況や様子を記録している。申し送りとして朝礼や、引継ぎ時に伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、通院や送迎等必要な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にとけこみ、安心して暮らしていけるよう地域の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人と相談して主治医を決めている。訪問診療に来てもらえないケースは、職員が対応している。検査必要な場合は、家族同行の受診となる。	入所時に本人、家族の確認をいただき希望を伺い、専門医との連携がなされており、緊急時においても迅速な診察が可能で適切な医療が受けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば、隣接の有料老人ホームの看護師に相談し、対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に見舞いに行き、状態を確認するとともに、主治医と連絡を取り合っており、早期退院に向けて調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所が対応できるケアを説明し、状態に変化があれば、早めに家族に連絡し、主治医と相談している。	ターミナルケアは実施していませんが、医師・家族・職員で状況の変化に応じた話し合いで対応し、方針の共有化が図られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急手当等の研修を全ての職員が受けるわけではないので、全員が受けられるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方等の訓練を実施、月に1回グループホーム内で避難訓練を実施している。	消防署からの指導の下、年1回の避難訓練と消火器訓練を行い、月1回の施設内の避難訓練を行っています。災害時には、施設と地域住民の双方で避難場所の受け入れが可能となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや誘導の時等は、利用者の人格を尊重した対応を心がけている。	入所時に、呼び方など本人や家族の方の意向を伺い、人生の先輩として日々の対応に心がけて、個人情報に関しては、鍵付の書庫へ保管し漏洩防止に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話し易い雰囲気をつくり、思いを話せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンや、希望にあわせ過ごせるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を自己決定できない利用者には、職員がその方に合った服装を選んでいる。髪の手入れ、爪きり(手足)には常に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でできた旬の野菜と一緒に収穫し、下ごしらえをしている。食事は楽しく、一緒に摂れるよう努めている。	地域の新鮮な野菜を使用し、利用者と下ごしらえを行い、好みに応じてメニューの変更など個別な対応がなされています。天気のよい日にはテラスで食するなど食事を楽しむ支援が伺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量はチェック表で職員が共有している。お茶や水で水分が摂れない人は、好きな物で摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の状態に応じ職員が義歯手入れ、歯磨き介助、見守り、声かけして口腔内の清潔を保持している。 ポリドントを使用(義歯を傷つけない)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で状況を把握し、トイレ誘導、声かけを行いなるべく失禁のないように努めている。	トイレへの誘導や声かけに十分注意をし、周囲への配慮に心がけ、尿意のない利用者には排泄記録にて状況の把握に努め自立支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	頑固な便秘の方には、毎朝牛乳を飲んでもらっている。お通じのいい食物、水分は多く摂れるように声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の、入浴したい日、時間に入浴できるよう工夫している。入浴を拒む方は、タイミングに合わせ誘導している。	ユニットごとに週3回の入浴を行っています。希望により曜日・時間の変更にも対応されています。入浴剤や利用者同士の入浴など入浴を楽しむ工夫がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで過ごされるよう促し、夜間は居室で休めるよう支援している。体調の悪い時は、いつでも居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員がいつでも把握できるようにしている。薬は手渡しで、あるいは介助にて服薬の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式の生活歴を作成し、一人ひとりが得意にしてる事等は、声かけをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や、外の椅子に座って歌ったり、ゲーム遊びをしている。	天気のよい日は公園や畑に出掛け、体調や気分に応じゲームや一緒に歌うなど個別の対応がなされています。月1回のドライブでは、利用者の馴染みの場所や、四季の変化に応じた外出の取り組みが伺えます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くにお店もなく、お金の管理のできる方は少ないので、職員が管理して日常品の支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用を希望する際には、事務所の電話で気兼ねなく話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただくために、利用者と一緒にはり絵、ちぎり絵をし、展示している。12月には利用者と一緒にチューリップの球根を植え、花の咲くのを楽しみにしている。	天井は高く、窓が明るく開放的な雰囲気が保たれ、壁に行事の写真を掲示し、楽しそうな雰囲気となっています。また、ちぎり絵・花傘を利用者と一緒に飾りつけ、自分の居場所が感じられる場所と工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ベランダには椅子、ホールにはソファを置き、仲の良い友達や一人でくつろげるスペースをつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた物を居室に置き、安心して過ごせるよう心がけている。	持ち込みに制限はなく、馴染みのソファや寝具を使用し安心して過ごせる部屋づくりが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーが必要な方には室内で使用していただき、自由に移動している。転倒防止に廊下、トイレ、浴室には手摺りを取り付けている。		